

# 茶路川筋の アイヌ語地名

## 第6回

### ○タンタカ（鍛高）

「タンタカ」は、白糠市街から国道392号を16kmほど北上したところにあり、その名はしそ焼酎「鍛高譚」によって全国的に知られています。



鍛高山としそ畑

「タンタカ」とは、魚のカレイ（鰈）を意味し、カレイがこまでさかのぼったという伝説から地名になったと言われています。白糠村時代の郷土史家小助川濱雄は、

『釧路国蝦夷時代史』で「川の名にしてタンタカと称する鰈の一種ここ迄上りたるより名あり」と記し、旧『白糠町史』（渡辺茂編）の「アイヌ語地名解」では、「タカノハ鰈、昔タカノハ鰈がこままで遡つたという」と説明しています。

現在では、タンタカはマツカワを指しますが、言語学者の知里真志保博士は『分類アイヌ語辞典動物編』で、白糠ではカレイ類の成魚の総称もタンタカであったとしています。

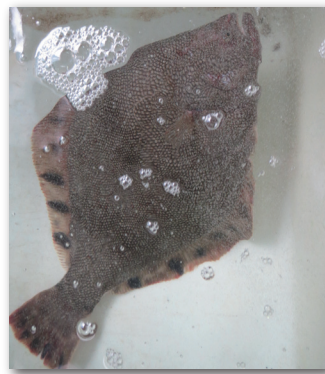
### ■高級魚タンタカ

タンタカ（マツカワ）は、主に北海道太平洋沿岸の水深200mより浅い砂泥底に生息しています。ヒラメに次ぐ高級魚として知られ、えりも町から函館市南茅部までの海で獲れるものには「玉鰈」というブランド名がつけられています。

マツカワの名は、目がある側の皮が松の表面に似ていることからついたもので、ひれが鷹の羽の模様に見えるのでタカノハとも呼ばれています。

一時は漁獲量が減って幻の魚と言われることが多かったが、近ごろでは稚魚の放流によって水揚げが増えてきているとのこと。

（参考 北海道ホームページ「北海道お魚図鑑」）



タンタカ（白糠漁協提供）

### ○ヌイベツ（縫別）

来る3月29日「ヌイベツ」で工事が進んでいる道東自動車道白糠インターチェンジが開通します。

「ヌイベツ」は「ヌイ（豊漁・たくさんある）・ペツ（川）」という意味で、秋になると産卵のために茶路川をさかのぼるサケで、川がいつぱいになったところからその名がつけられました。古くは「ノイベツ」と呼ばれ、その名は現在も字名として使われています。

### ■地層が物語る縫別の大昔

縫別川上流の約3500万年前の地層では「褶曲」と呼ばれる曲がった地層や石炭層を見ることができません。また、植物化石をはじめ、カキや巻貝、カニの爪などの化石も見つかっています。

褶曲は南大曲の茶路川の崖にもあり、約4000万年前の砂岩と泥岩からなる地層がグニャツと曲がっているようすが見られます。

この地層の変形は、海底での地滑りによってできたものと考えられていて、海の生物の化石とあわせ、大昔、このあたりは海の底であったことを物語っています。

（参考 平成25年度「ふるさと未来塾」活動資料（北海道教育大学釧路校授業開発研究室提供））



南大曲の褶曲